

【第3号議案】

平成28年度事業計画書

平成28年4月1日～平成29年3月31日

特定非営利活動法人 ザ・ピープル

1. 事業の目標

平成28年度については、本会が現在置かれている社会状況を踏まえ、以下のような重点目標を掲げ、事業の推進に法人全体として取り組んでいくことを計画している。

(1) 古着リサイクル事業の地域内循環に向けたビジネス性の確立

今年度新しくオープンする久之浜地区の津波被災エリアの商業施設「浜風きらら」に出店を行い、地域内で衣料品を購入する場に恵まれないとの地域住民の不満を解消し、地域コミュニティの核としての機能を持てるようにする。

小名浜アクアマリンパーク潮目交流館でのフリーマーケット「濱人いち場」の開催が決定したことから、フリーマーケットを通しての古着利活用を進める。

(2) 日本チャリティーショップ・ネットワーク内での活動の連携促進

参画団体間の情報共有に協力するほか、視察の受け入れを行う。

(3) 古着を素材とするリメイク品・反毛手法を生かした手工芸品による事業展開の促進

都内で開催されるハンドメイドクラフト関係の展示会にスタッフを派遣し、アイデアやデザイン力の向上につなげる。

(4) 海外の団体とつなぐ活動の展開

昨年度の地球市民フェスティバル・太平洋島サミットでの成果を単年度で終わらせることのないよう、具体的事業展開を行う。また、これまで奨学金供与のみにとどまっていた海外支援事業の今後のあり方を検討する。

(5) 東日本大震災後の復興支援にかかる諸事業実施

① 小名浜地区復興支援ボランティアセンター運営とそれに伴う諸事業

● 復興庁「心の復興事業」 つながりを耕すコットンプロジェクト（採択済み）

本市では、震災後に津波被災者を含む住民と原発避難者との共生が一挙に進んだことで、地域コミュニティが抱える問題が深刻化している。また、双葉郡広野町では帰還したとは言え解決できないコミュニティの悩みを抱えている。本事業は、本会が地域農業と人のつながりの再生を目指して進める「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」による綿の有機栽培と、収穫綿を使った手工芸品作りの場で、地域農業者、避難者、地元住民や地域の子供たちといった幅広い層が立場の違いを超えて体験を共有することで、生きがいつくり、新たなコミュニティづくりを図る。

● 福島県「いわきの復興を担う地域コミュニティ重点支援事業補助金助成事業」

永崎団地における住民とのふれあい交流の架橋事業（申請中）

小名浜地区には原発避難者と津波被災者のための公営住宅が集中的に建設されており、

県営・市営の住宅に対する支援格差を耳にすることが多い。本法人が開設する小名浜地区復興支援ボランティアセンターには、震災から6年を迎える現在も県内外から復興支援のためのボランティア活動をしたいと訪れる人々が多く、特に被災者との交流を希望する団体が多い。こうしたことを踏まえ下神白団地集会所および永崎団地集会所の2会場をつなぐ形で活用し、外部ボランティアを交えながらアトラクションと手作り軽食による交流会を開催する。

● JPF「ともに生きるファンド助成事業」いわき「置き去りゼロ」プロジェクト（申請中）

2015年に、「誰も置き去りにしない」をスローガンに掲げる「我々の世界を変革する持続可能な開発のための2030アジェンダ」が国連持続可能な開発サミットで採択された。こうした国際社会の動きがある一方で、東日本大震災後の福島では「復興」や「普通の生活」から置き去りにされた人達は、震災後5年を経過した今日でも深刻な問題を抱えている。こうした人たちを対象とし、以下の事業を実施。「誰も置き去りにしない」社会の実現を目指す。

- i 福島県いわき市における、仮設住宅に取り残された人たちや不就業により社会との接点をなくした若者などの置かれた状況や、地域住民と避難者の交流が進まない現状をヒアリング調査
- ii 仮設住宅への訪問などを通じて、上記の人々のニーズを確認し、コットン畑での共同作業やその他の手法で人々をつなぐ
- iii 風評被害により耕作をやめてしまった農家と地域内外のボランティア（避難者自身を含む）を、「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」の推進によってつなぐ
- iv 復興のフェーズのなかで取り残され、孤立してしまっている人たち（避難者・不就業の若者など）に対して、コットン畑での共同作業参画を通じて社会活動への機会提供さらに、福島が抱える問題を外部に発信し、福島の問題を埋没させないように、伝えることも必要である。複合災害をいち早く体験することになった福島で、震災後にコミュニティレベルでどのような課題が発生し、それに対してどのような対応を行ったのかを発信することには大きな意味がある。本事業での情報発信を通して、福島県外の人々のなかに、万が一福島と同じような状況に向き合わねばならなくなった時へのコミュニティレベルでの備えを生み出すことを目指す。

② 「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」運営によるいわきの農業活性化及びオーガニックコットン製品開発に関する取り組み

● 地球環境基金助成事業

福島県いわき市・広野町を中心とする学校教育現場等での環境保全型農法による綿花栽培を通じた環境教育の実践と産業化に向けた整備事業 STEP3（採択済み）

本会は「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」として綿花栽培による環境保全型農業のモデル事業を、貴基金の助成を頂きながら平成23年度下半期より進めている。これまで4年間の栽培の中で、いわき市と双葉郡広野町を中心に、26か所2.7haでのコットン栽培が定着しつつある。

平成26年度からは、学校教育への綿花栽培体験の拡大（教育面）と栽培の安定化・事業の産業化（栽培面・事業化面）という部分に絞った取り組みを重点的に展開している。この取り組みの最終年度となる今年度の事業においては、先に記した現時点での地域に特有な社会課題の解決に向けたアプローチも含め、以下の4点を主要テーマとして事業の形態を整え、

今後独立した事業として継続できるだけの完成形に至ることを目指してきた。今年度はその事業の最終年度ということで、今後の持続性を担保できる結果を残すことに注力する。

テーマ1. (教育面) 身近な衣服の素材を自ら栽培することによって、教育現場で使える環境教育・産業教育・震災教育を結びつけたプログラムの整備と、現場の教職員の手でプログラム実施できるようなシステム整備。

テーマ2. (教育面) 国外を含む地域外の教育現場への教育プログラムの情報発信。

テーマ3. (栽培面) 広野町・楡葉町の帰還農業者に向けたコットン栽培への参画呼びかけ。栽培主体が帰還住民の手で組織されるような働きかけ。

テーマ4. (事業化面) いわき市小名浜神白地区での、コットン栽培・女性の手仕事づくりを通じた新たなコミュニティ作りへの働きかけ。広野町の女性たちを中心とした糸紡ぎの技術習得とイベントへの講師派遣の実施。全国コットンサミットの機会を捉えての事業コラボ開拓。

● 日本フィランソロピー協会 JCB 寄附金事業

心をつなぐふくしまオーガニックコットンプロジェクト (採択済み)

「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」では、震災後原発事故の影響で耕作放棄されてしまった農地において、在来種の綿花を有機農法により栽培、ものづくりまで行おうという取り組みが進められている。環境に大きなダメージを被った福島から、環境に配慮した本物を生み出すことで、再生を目指したいとの心意気で始められた事業である。原綿の売却益は栽培農家に還元されている。

また、手間の掛かる農作業を多くの人々が関わり、交流できる場の提供できるメリットと捉え、これまでに地域内外から 15,000 人を超える人々の参画を得、震災体験の風化、風評の固定化が進む福島において、現地に足を運ぶことで思いを寄せる人のつながりを生み出そうとしている。この事業においては、特にいわき市内に特有な課題として、24000 人を超える原発避難者といわき市の住民との心理的断絶を解消し、交流を如何に進めるかという点に注力している。圃場での農作業を通じた交流が、今後そうした意味で機能し得ると考える。

このプロジェクト運営に関わる資材の調達や、避難者と周辺住民が交流できる場の提供に関する広報物の作成、来年度種蒔きの時期を捉えての夏祭り交流、収穫祈願祭といったイベントの実施、スタッフの人件費の確保、などに活用し事業の更なる進展を図る。

● 公益財団法人地域創造基金さなぶり つながる 2016 (採択済み)

さなぶりを介して企業等より寄付金を募る。さなぶりが介在することで、企業側が税優遇措置を受けることができるため、寄付金を集め易くなる。

③ 「3.11 被災者を支援するいわき連絡協議会 (みんぷく)」との連携による事業

NPO 法人みんぷくの副理事長を本会理事長が兼務することから、双方の組織の不足する部分を補完しあえる関係を築く。

④ 被災体験に基づく情報発信に関する事業と若者に対する復興に対する意識啓発を目的とする事業

福島での震災体験を下に、今年度当初に熊本県で発生した大地震被災者に対する支援事業のあり方を検討。熊本県玉名市 NPO 法人れんげ国際ボランティア会、水俣派遣研修参加学生たちが設立した学生ボランティアグループ ONE STEP との連携により、事業実施。

⑤ その他被災者支援のために有効と考えられる事業

(6) 次世代の人材育成

次代を担える事務局体制構築を進めるとともに、次年度以降の事業継続を可能とする組織体制の検討を進める。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に関する事業

定款の事業名	事業内容	(A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	支出額 (千円)
古着リサイクル関連事業	古着回収・仕分け等リサイクル基盤事業	(A)常時 (B)いわき市内各リサイクルボックス いわき市小名浜志賀倉庫 (C)10名×20日×12月	(D)一般市民ならびに全国の賛同者 (E)不特定	8,200
	濱人市場フリーマーケット管理運営	(A)4月～12月毎月1回 (B)アクアマリンパーク潮目交流館 (C)3名×9回	(D)一般市民 (E)不特定	0
	エコウルリサイクル事業およびリメイク品製作販売事業	(A)発送準備および反毛加工常時 発送：毎月2回 (B)いわき市内小名浜ファイバーリサイクル倉庫 (C)発送：1名×24回	(D)一般市民ならびに全国の賛同者 (E)不特定	9,200
	常設・臨時バザー出店事業 久之浜地区への出店を含む	(A)常時 (B)いわき市内PCC各店・イベント会場 (C)常設バザー60名	(D)一般市民 (E)不特定	10,000
	反毛製品化事業	(A)常時 (B)いわき市内小名浜ファイバーリサイクル倉庫工房ピープル他 (C)2名	(D)一般市民 (E)不特定	0

在宅障がい者自立支援事業	バザー用古着・ウェア提供事業	(A)常時 (B)いわき市内小名浜仕分場 (C)10名	(D)いわき市内障がい者関連施設 (E)25名	360
海外生活支援・海外教育支援事業	タイにおける支援事業・ミクロネシアに対する支援事業	(A)6月・12月 (B)タイ国チェンマイ・ミクロネシア (C)1名	(D)チェンマイ大学教育支援サークル・ザビエル高校 (E)少数民族100名・ザビエル高校生50名	1,000
情報発信事業	会報発行・HP管理・エコプロダクツ展出版	(A)会報:4回・HP:常時/出展:12月 (B)会報・HP:事務局/出展:東京都江東区 (C)会報各号4名/出展:4名	(D)一般市民・首都圏民 (E)不特定	1,000
ワークショップ・講演会・市民啓発事業	ワークショップ・講演会事業	(A)未定 (B)いわき産業創造館・熊本県 (C)2名	(D)一般市民いわき市内の中高生 (E)不特定・15名	500
ボランティア活動体験・研修受け入れ事業	中高生ボランティア体験受け入れ	(A)9月～ (B)いわき市内小名浜仕分け場他 (C)各回3名	(D)いわき市内中学生 (E)50名	0
関係団体との交流・連携・協力事業	いわき市民間国際交流・協力団体連絡会事務局業務	(A)常時 (B)事務局 (C)2名	(D)いわき市内国際交流・協力関係団体 (E)10団体	0
被災者支援に関する事業	東日本大震災救援・復興支援事業 小名浜地区復興支援ボランティアセンター・小名浜地区交流サロン運営業務	(A)常時 (B)事務局・小名浜地区復興支援ボランティアセンター・小名浜地区交流サロン等 (C)専門スタッフ6名・ボランティア6名	(D)東日本大震災被災者並びに地域住民・首都圏からの視察客 (E)不特定	5,000

第一次産業の活性化に関する事業	いわきオーガニックコットンプロジェクト関連事業	(A)常時 (B)事務局・市内での綿花栽培地等 (C)専門スタッフ 3名・ボランティア等 30名	(D)市内農業従事者・原発関連の避難者・首都圏からのボランティア希望者 (E)1600名	7,500
その他の事業	本会活動推進のために必要な事業			200

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	(A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	支出額 (円)
会員研修会・研修旅行の開催	研修会	(A)1月 (B)未定 (C)30名	(D)ボランティアスタッフおよび会員 (E)未定	200